



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート

第93号(2011年10月31日)



【クウェートが新たに再生エネルギーの目標を設定】

クウェート政府は、新たに2020年までに使用する電力の10%を再生エネルギーでまかなうという目標を打ち出しました。これは、同じく2020年までに7%をまかなうというアラブ首長国連邦の目標をも上回るものとなります。

クウェートには現在太陽発電の設備はなく、また、使用する電力量は年間約8%の割合で増えていっているため、これはかなり野心的な目標だと見られています。

クウェートの再生エネルギーへの取り組みは、現在発電に使っている石油をより輸出にまわすのと同時に、発電量を増やして今後ますます高まるであろう観光、製造業、建設などのための需要をまかなうことが目的とされています。

この野心的な目標を達成できるかどうかについては疑問の声があがるものの、こういった再生エネルギーへの取り組みの必要性ということでは、疑問の余地はあまりないようです。石油会社BPの統計によれば、2010年にアラブ諸国は1日あたり41万3千バレルの原油を使用しています。2000年と比べると、産出量は14%増えているのに対して、使用量は66%増えていることになるそうです。

アラブ首長国連邦は既に再生エネルギーの利用に取り組んでいるもののクウェートは後発となり、これからこういった技術を利用するのか決めていくという段階です。そのため、アラブ首長国連邦は目標に近い着地が見込まれるものの、クウェートについては厳しいだろうとされています。

アラブ首長国連邦では、アブダビに既に太陽発電の設備があり、ドバイにおいても近々最初の実用的な規模の太陽発電の設備を設ける計画を発表することになっています。



※ 写真はイメージです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート



【Dubai Investments社が7億ディルハムを調達】

ドバイに上場しているDubai Investments社は、傘下に40を超える製造業、不動産、金融などの会社を保有する持ち株会社です。

Dubai Investments社は、傘下の企業の一つ、アブダビのEmirates Float Glass社のプロジェクトのために12億ディルハム(約240億円)の資金調達を計画していましたが、そのうち7億ディルハム(約140億円)の調達が完了したことを発表しました。残りの資金についても、必要な時点で銀行から調達できるとしています。

Dubai Investments社は傘下に金融機関を抱えているため金融危機の影響を受けていることや、傘下の不動産企業が所有する不動産価格の再評価によって損失が出ていることなどから、第3四半期の利益は、前年同期の2億1千万ディルハム(約42億円)から3千万ディルハム(約6億円)ほどまで悪化する見込みです。

しかし第4四半期以降については、傘下の企業を通じて業績の拡大を見込んでいます。

【ドバイ・ショックから約2年】

いわゆるドバイ・ショックからまもなく2年経とうとしています。

2009年11月にドバイの政府系企業であるドバイ・ワールドが債務の返済の繰り延べを宣言したため、金融市場に動揺が走りました。その後債権団との債務再編の交渉を経て、今年の3月には債権者との最終合意に達しました。

2009年当時と比較すると、経済成長と安定した収入により、近々来る債務の満期については問題なく対応できるだろうと見られています。ドバイ・ショック後はドバイの政府系企業の負債問題について長らく懸念されてきましたが、最近のドバイの経済活動は活発になっており、それにつれて政府の税収も増えてきていることが、その根拠です。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『らくだより』

スパークスの中東地域における情報発信レポート



【ドバイの警察アプリ】

第91号では警察当局の責任者がTwitterを活用している事例をご紹介しましたが、どうやらそれだけではなく、既に昨年「アプリ」を出していたようでした。プレスリリースを見る限りはiPhone, iPad向けのアプリで色々なサービスにアクセス可能とのことでした。

試しに検索したところ、確かにDubai Policeという名前でアプリが登録されていました。確認した限りレビューの意見はありませんでしたが、果たして人気、使い勝手はどのようなのでしょうか。

※「アプリ」とは一種の端末向けのソフトウェアの総称です。

【ドバイの交通当局の試み】

ドバイの交通当局がGoogleと提携して、バスなどの公共の交通機関を使った場合のルート検索がGoogle Map上で容易にできるようになっています。Google Mapにこういった機能が取り込まれるのは、中東、北アフリカではドバイが初めてのケースだそうです。

2009年のサービス開始当初はバスのみ表示されていたようですが、今年のアップグレードにより、水上バスも含めて全ての公共の交通機関が利用できるようになったようです。

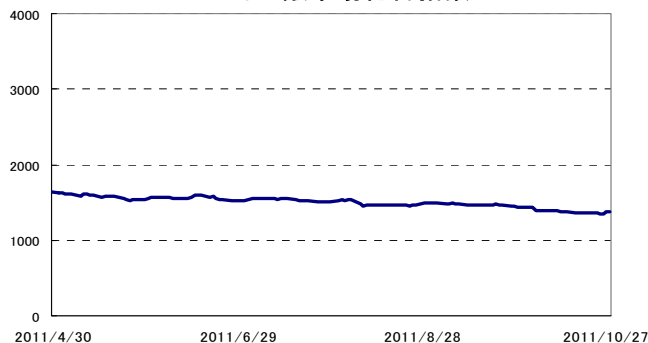


本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

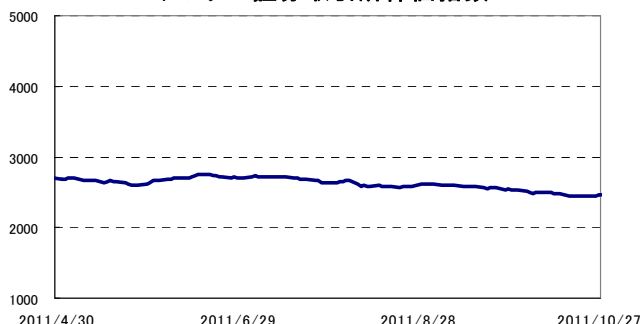


【ご参考】 中東(GCC)地域の株価推移 (各市場の直近6ヶ月)

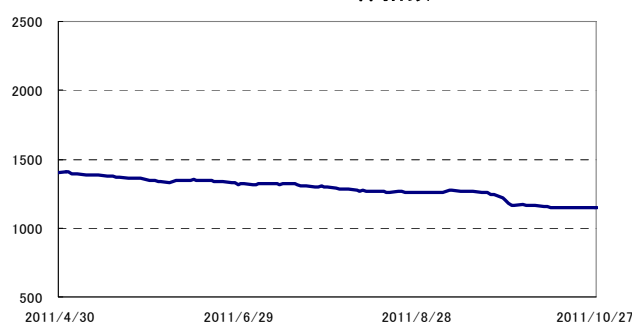
ドバイ金融市場総合指数



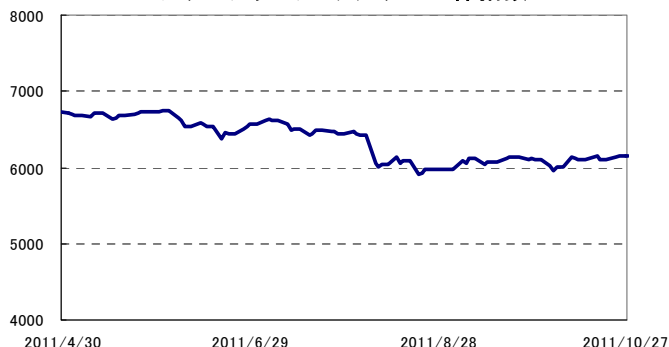
アブダビ証券取引所株価指数



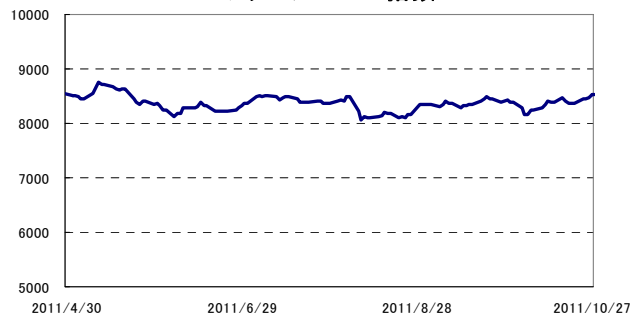
バーレーン全株指数



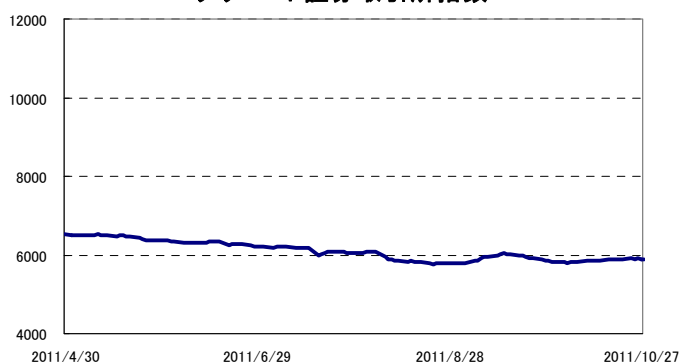
サウジアラビア タダウル全株指数



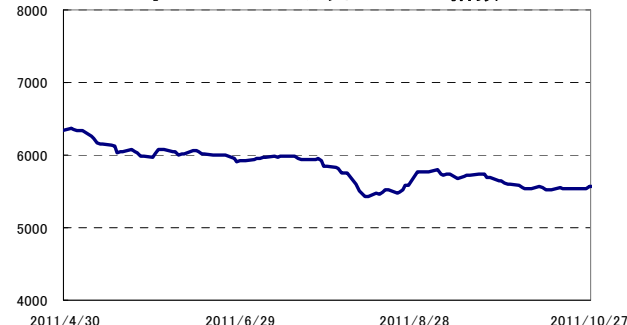
カタール DSM指数



クウェート証券取引所指数



オマーン マスカットMSM30指数



出所:FACTSET



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。